令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100795
法人名	株式会社ウェルサポート
事業所名	グループホーム 黄金の愉
所在地	富山市 田尻西56-3
自己評価作成日	令和3年 2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>認知症高齢者の暮らしの場として、地域の皆様の温かいご支援のもと運営させていただいている。 利用者の安心安全に努め、ご家族が安心できるように地域の関連機関と連携をとり、運営の指針に反映させている。 広いリビングで景色を眺めながら、ゆったりとくつろいで生活を送れる様に支援している。</p>
--

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年2月19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>施設は見晴らしのよい田園の中に立地している。利用者は畑や農業の経験者が多く、運営理念の「土に親しむ」にあるように周囲の田園を眺めたり、庭の草むしりや畑仕事、花の栽培など土にこだわった支援に力を入れ、毎日コーヒーを飲む習慣のある利用者にはその習慣を継続するなど、利用者1人ひとりの生活歴を尊重し、その人らしさを引き出す介護が実践されている。現在は感染症対策のため一部実施できないが、利用者の希望に合わせ外へ散歩したり、海岸で貝拾いをしたり、足湯に出掛けたりとゆったりとした生活環境作りに努めている。職員は利用者主体の支援を心掛け、利用者が自宅で暮らしているような安心した日常が提供できるようチームで話し合い、利用者の「心の声」を確認しながら日々邁進している。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、施設における生活と支援の根幹となるものであり、スタッフは目標を共有し実践に努めている。	施設玄関とフロアに理念を掲示し、普段から意識できるように努めている。また、外部の人の来所時には理念が記載してあるパンフレットを渡して周知したり、新規利用者が入所されたときや新人職員が入社した際には施設の理念を説明し理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内役員、民生委員、地域包括支援センターなどから助言や指導を受けている。コロナウイルスのために集まる機会が減ったが、可能な限りの交流を行っている。	地域の小中学校の生徒を招き、歌の会やバザーなどのイベント開催を行ったり、地域の花火大会や祭りにも参加するなどの交流を行っている。また、施設の広報誌を地域の方に配り施設の取り組みを発信している。コロナ禍で交流制限はあるが、毎日犬の散歩に来る近隣の人と、ガラス越しに犬と戯れる時間があり、利用者はとても喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設という特性を生かした地域貢献ができないか、運営推進会議において提案し助言を得ている。ホームでの生活の様子を知っていただくため会報を作成している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会長、民生委員、第三者委員、地域包括支援センター、施設職員から常に意見、助言を得ている。コロナウイルスによる自粛期間中は、開催を延期し、間が空き過ぎないように参加人数を抑えて開催した。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、施設の取り組みや運営状況について報告し、意見交換を行っている。会議では感染症対策や災害対策に対する助言をもらい運営に活かしている。(※現在は感染症対策のため実施制限あり。)	運営推進会議録の家族等への配布や全職員への回覧により、会議の意義等の理解につなげることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスによる自粛期間もあり、富山市介護相談員の訪問が例年より減ってしまったが、可能な限り情報の交換を行っている。	2ヶ月に1度、市派遣の介護相談員に来てもらい利用者と意見交換を行っている。運営推進会議委員である地域包括支援センターには、施設の実情を理解してもらっており、連携を図りながら運営やサービスについて助言をもらうなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止事項を含めたマニュアルの回覧をスタッフに周知している。やむを得ず必要となる場合には、ご家族へ連絡し身体拘束についての説明を行い、理解と同意を得る。	指針とマニュアルを整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、定期的に勉強会を実施し、職員間の意識統一を心掛けている。運営推進会議で身体拘束について報告し、意見交換や他施設の具体例を確認しケアに活かしている。(※現在は感染症対策のため実施制限あり。)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への介助が、スタッフ本位にならない様、介護への正しい関わり方、知識を身に着ける様、話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に出席できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に記載されている事項を読み合わせ、説明し、疑問点に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で出てくる、利用者からの声を聞き取り、家族からの意見を含め、介護プランに反映している。また、その情報を職員で共有できるように開示している。	利用者の意見は管理者が職員から聞き取り把握に心掛けている。家族等の意見は面会の際や、施設での様子を郵送でやりとりする際に収集している。収集した意見は会議で話し合い運営等の改善に向けている。また、職員にはケース記録や申し送り等で周知を図っている。	利用者、家族等の意見があった際の記録方法等書類の整備に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、職員より提言を受け、施設における課題を共有している。	毎月ミーティングを開催し、職員との意見交換を行っている。また、年間2回、代表とのヒアリングを実施し意見や提案を聞く機会を設けている。施設内に意見箱を設置し、気軽に意見や提案ができるような環境作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自社の範囲ではあるが、改善の努めをしている。働きやすい職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の状況を見ながら、実務年数に応じて研修への参加を勧めている。コロナウイルスによる自粛期間のため、研修が中止になることが多くあったが、自主学習ができる様に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り、地域の運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。コロナウイルスのため、出席できる回数は減ったが、情報の交換は継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族、関係者から情報を提供していただき、これまでの暮らしと変わらぬ日々が過ごせる様、暮らし方シートを作成し、入所後の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の前段階より、安心して入居できるように連絡を取りあい、施設生活におけるご家族の不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族からの希望を聞き取り、現在、抱えている問題を慎重に確認し、優先順位を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団の中で利用者が、個人の能力を活かして活躍できる場面作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスのため面会・外出の自粛をお願いすることが多かった。出来るだけ、施設での生活状況を伝えるため、連絡の頻度を増やし、お知らせの施設会報を作成した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防に努め、ご家族へ予防を周知した上で、可能な限り面会の機会を設けた。	コロナ禍であり頻回な交流はできないが、予防対策を取りながら玄関先などでの面会や家族との買い物・ドライブ等なじみの場所へ外出が継続できるよう支援している。施設からも地域の神社や公園に散歩したり、近隣の人の施設周辺の散歩時に声をかけあうなど交流を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	積極的に利用者へレクリエーションの参加を呼び掛け、利用者同士の交流を図り、トラブルが起きないように関係性に気をつけ、情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り、移動された後の様子を、ご家族に確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に施設で生活を送る上での希望を聞き、沿える様に努めている。聞き取りが難しい方は、個別の関わりがある場面において反応を確認し、その方に相応しい介護プランを検討する、また生活歴を考慮する。	利用開始時に家族や利用者から思いや希望を確認しアセスメントに活かしている。日常的にも会話やしぐさなどから思いや意向が把握できた場合にはケース記録に記入し、職員間で情報共有を図っている。担当者会議にて話し合いを行い介護計画に組み込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にあらかじめ、前任のケアマネから情報収集を行い、ご家族へは、生活歴のヒアリングとセンター式B-3シートへの記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしを観察し、利用者の変化に対応できるように、記録と情報の共有を医療機関と行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活状況の向上を目指し、個人の持つ課題に寄り添ったケアプランの作成に努めている。介護の経過が把握できるように、ご家族にホーム独自の記録シートをお送りしている。	日々の関わりから利用者の思いや希望を収集し、また、家族からは面会時や電話連絡等で意向を確認している。利用者や家族等の意見を踏まえて多職種間(介護職、看護師、ケアマネ、管理者等)で担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行い現状に即した支援を実施している。	新たな情報による定期的なアセスメントの見直しや利用者一人ひとりの介護計画(アセスメント→計画作成→計画実施→モニタリング)の流れが把握できる資料の整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入を毎日行っている。カンファレンスで意見された工夫や気づきはノートに記録して、情報を共有し実践に繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者への訪問サービスを積極的に取り入れている。 感染予防のため、訪問を制限する期間があったが出来る限り対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校、ボランティアと交流を図っている。今年度は、コロナウイルスのため地域のイベントへの参加の機会が激減した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に応じた医療機関への受診支援を行っている。医療機関からの情報をスタッフで共有できるように、専用の医療ノートでの記録を行っている。	利用契約時に入所前からのかかりつけ医を継続するか、施設協力医に変更するかを決めてもらっている。定期受診や訪問診療時は施設から情報提供している。診察後の処方変更や注意事項はノートに記入し、職員間で情報共有に努めている。また、非常勤の看護師とは24時間オンコール体制がとられ、緊急時の対応に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと看護師が日常的に報告、連絡、相談が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者の情報提供を行っている。定期的に病院側へ連絡を取り、利用者の状態の把握に努めている。退院後、看護サマリーを受け取り、新たな介護プランの作成に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」の説明を行い、終末期のケアについて主治医に相談し、施設内でどのように行えるかスタッフで相談し、ご家族の希望に沿える介護プランを用意する。	重度化した場合における指針を整備し、契約時に説明を行っている。現在、重度化対応や終末期ケアの実績はないが、利用者の意向や身体的状況と家族等の希望を踏まえ随時検討を行い、本人にとって生活しやすい場の情報提供や選択等を支援している。	重度化対応や終末期ケアに対する体制構築(研修・職員の意識統一等)に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は年に1回、救命講習を受けていたが、今年度はコロナウイルスのため、資料の配布と講習経験者による情報提供に留まる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間を想定した火災避難訓練を行っている。また、災害時の避難場所と備えを用意している。	年2回、地域の方や消防団が参加し、火災の避難訓練や消火器の使用訓練等を行っている。地震災害については地域の小学校が避難場所に指定されており確認している。水害時の避難は、近くのホテルに避難させていただくことをお願いしており、避難場所を確保している。また、衣類や食物の備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノック、排泄時、更衣時、環境に配慮し利用者に羞恥心を抱かせないように配慮した対応をしている。また、スタッフへ周知している。	利用者のトイレ誘導の際には、周囲に聞こえないよう耳元での声掛けに留意したり、衣類更衣や薬剤塗布の際に周囲に人目があればパーテーションで目隠しするなどプライバシーや尊厳に配慮している。定期的に勉強会も開催し、職員の意識統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を把握できるように、日常でヒントとなる言葉を記録している。その中で、自己決定を行っていただくための選択肢を提示する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の暮らしのペースを第一に考え、出来る範囲で希望に沿えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容サービスを提供し、スタッフによるネイルサロン体験などを実践し、施設での生活の中でも、おしゃれを忘れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事能力に合わせた食事形態で提供し、ご自身で食べられるように支援している。また、片づけをスタッフと共に行ってもらっている。	厨房設備があり、利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下能力に応じた食事を提供している。月1回は利用者と一緒に食事準備を行う特別日を定め、利用者と一緒に買い出しに出かけたり、野菜を切ってもらうなど調理に参加してもらっている。利用者の誕生日にケーキを提供したり、パンケーキや寒天ゼリーと一緒に作ったりと食を楽しむ環境作りに心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養のバランスとカロリーが計算された物を、専門業者から受け取り提供している。また、利用者に合わせて粥、刻み、ミキサー食などの加工をしてをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄を促している。また、歯科医師、歯科衛生士の定期往診と口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、自力での排泄ができるよう支援している。排泄のパターンを把握するため、チェック表により記録をとり、スタッフ内で情報の共有を行っている。	排泄チェック表を記載し、利用者一人ひとりの排泄状況を確認している。トイレの手摺の数を増やし掴まりやすくしたり、トイレ誘導の声掛けをこまめに行ったりと極カトイレでの排泄が行えるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ、体操、水分摂取に努め、便秘が3日以上続かないように努めている。自然な排便が行えるよう、必要に応じて医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	土日を除く、週5日の間で希望のタイミングで、週2日の入浴を確保している。電動リフトを設置し、浴槽を跨げない利用者にも湯船に浸かり、入浴を楽しんでいただいている。	一般浴・電動リフト浴・シャワーシートの入浴設備があり、利用者の身体状況や希望に合わせて入浴設備を選び、安全・快適に入浴している。異性介護者を恥ずかしがる利用者には同性介助者が付き添うようにしている。また、入浴剤の使用やゆず湯・みかん湯を行い季節を感じることもできる入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は、個人の希望と必要に応じて取り入れ、臥床時に寝返りの体位変換を行い安眠の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬情報は、スタッフが見やすい場所に資料を設置し、投薬の変更事項は、看護ノートに記載し、薬剤師からの指示を受けた上で、変更になった理由や用法、用量について申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の持つ力を活かした、家事や作業への参加を呼び掛け、ホーム生活において役割を持っていただく。ご家族の協力を得て、嗜好品を施設へ持参していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスのため、自由な外出が難しかったが、県内の感染状況と天候によっては、外の空気を吸いリフレッシュしてもらうため、ドライブに出かけた。	コロナ禍であり出かける回数などに制限はあるが、予防をしながら利用者の体調や希望に合わせて、近くの公園や海岸へ散歩したり、なじみのスーパーへ買い物に行ったり、企業が解放している足湯を楽しむなど様々なところに出掛けている。また、施設周辺を散歩し景色を楽しんだり地域の方と触れ合ったりする時間を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の現金の管理は、ご家族より預かり職員が行っている。外出時や欲しい物がある時など、希望に応じてお渡しし、個人で支払いが行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みのある方との、電話や手紙でのやり取りで関係性の継続を支援している。希望に応じて、利用者からお電話を自由に掛けられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の適切な空調管理、部屋の明るさ、清潔の維持に努めている。リビングにおいて広くスペースを利用し、ゆったりと過ごせる空間作りを行っている。	共用スペースはエアコンやヒーター、加湿器等を使用し、温度や湿度を管理している。大きな窓から外の光を入れ明るく過ごしやすい空間作りに配慮している。ガラス越しに見える景色は四季の移り変わりがよく見え、利用者が眺めて楽しんでいる。壁には利用者手作りの季節に合った作品が飾られ華やかであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は、常に移動が自由であり、制限なく思い思いの場所で、気の合う方同士で自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、馴染みのある衣類や、家具、写真などをお持ちいただき、自分の部屋として過ごせるように工夫している。	居室にはエアコン、ベッド、衣類タンスを完備している。居室内に利用者の使いなれた椅子やテーブル等の家具が持ち込まれ、自分らしくレイアウトして居心地のいい居室環境になっている。大きな窓からは外の光が入り明るい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、各部屋の用途に分けて、扉を色分けしている。利用者の移動が阻害されない様に、家具の配置を行っている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 黄金の愉

作成日： 令和 3年 3月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画におけるアセスメントの確認が担当、ケアマネージャーなど一部の職員内で完結しており、全体への周知が不十分である。	・介護計画への取り組みの一連の流れを、職員全体で把握する。	・一連の流れが分かり易い資料の作成。 ・利用者個々の介護計画の周知を職員全体に呼び掛ける。	6ヶ月
2	33	職員同士での重度化・看取りへの意識の違い。	・重度化対応への体制構築と意識の統一。	・施設内での研修の実施。 ・施設としての方針を示し、職員との話し合いの機会を設ける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。